

京都市会だより

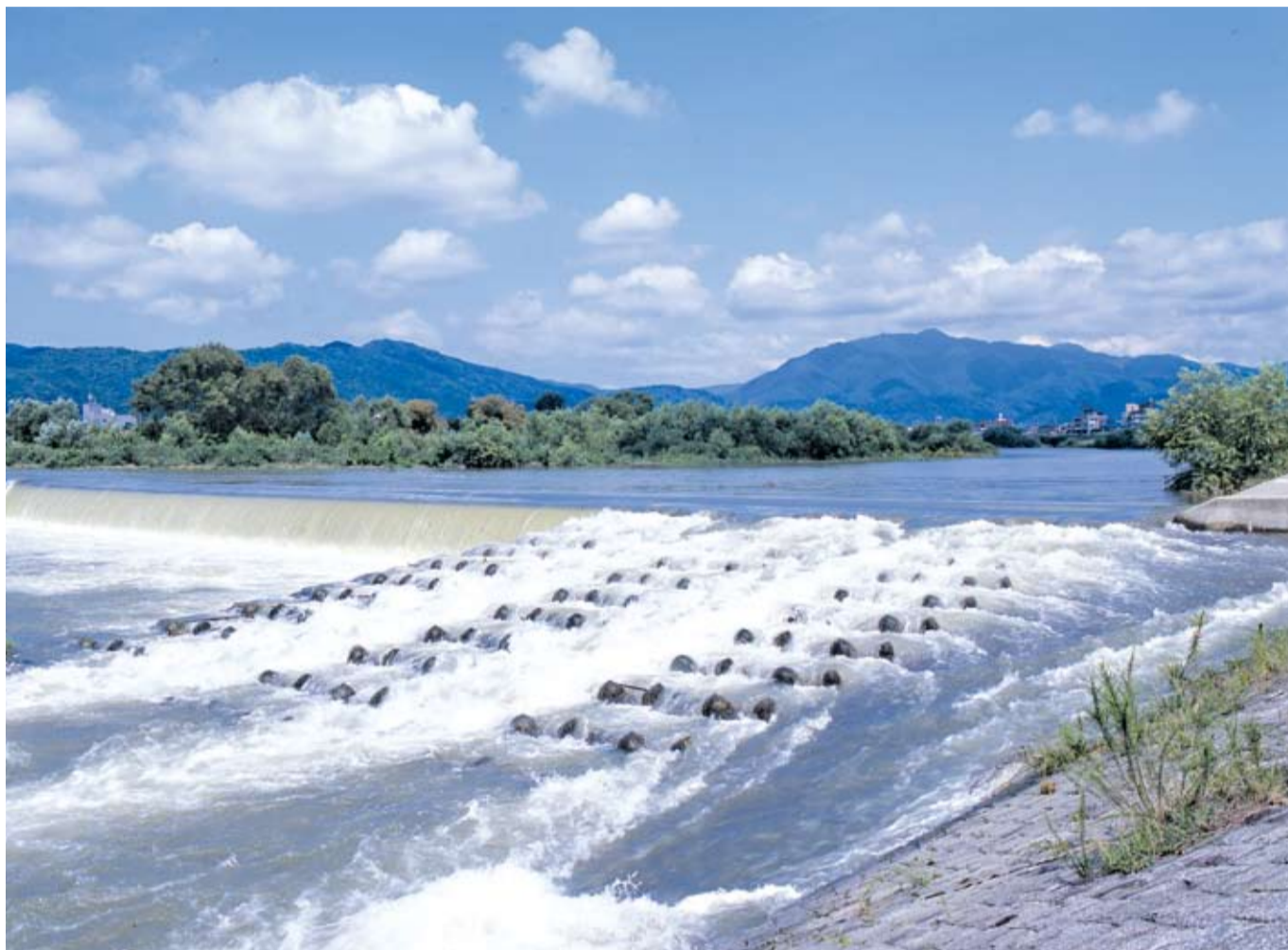
第54号

平成22年(2010年)7月15日発行

●発行/京都市会
●編集/市会事務局
●〒604-8571京都市中京区寺町通御池上
●TEL.075(222)3697
●FAX.075(222)3713

京都市会ホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/shikai/>



桂川左岸からの西山

市立看護短期大学の 廃止条例を可決

5月市会定例会

5月定例会が5月14日から5月28日までの15日間開かれました。今回の定例会では、繁隆夫議長と安孫子和子副議長の辞職に伴い、正副議長の選挙を行った結果、新議長に加藤盛司議員、新副議長に柴田章喜議員がそれぞれ選ばれました。議案については、市長提出議案26件、議員提出議案9件を審議しました。

市長提出議案のうち、平成22年度国民健康保険事業特別会計補正予算など2件については、普通予算特別委員会を設置して付託・審査のうえ、原案のとおり可決しました。市立看護短期大学の廃止条例など議案18件については、それぞれ担当の常任委員会で審査のうえ、すべて原案のとおり可決しました。

さらに、監査委員の選任など議案6件についても、原案のとおり可決しました。

議員提出議案については、B型・C型肝炎ウイルス患者の救済に関する意見書など7件の議案を原案のとおり可決しました。

■定例会の経過

5月14日	本会議	会期の決定、議案の提案説明など
5月18日 19日	本会議	正副議長の選挙、普通予算特別委員会の設置、議案の委員会付託、代表質問など
5月18日 20・27日	普通予算特別委員会	正副委員長互選、国民健康保険事業特別会計補正予算の審査など
5月21日 24・27日	常任委員会	付託議案や請願の審査など
5月28日	本会議	議案や意見書の議決など

5月定例会で審議した主な議案の概要は次のとおりです。(結果は4面参照)

◆平成22年度国民健康保険事業特別会計補正予算など2会計補正予算

依然として厳しい状況にある経済・雇用情勢を踏まえ、緊急雇用対策事業を追加するほか、国民健康保険事業特別会計において、前年度の歳入不足を補う繰上充用に要する経費等を補正するものです。補正予算の規模は、89億1千5百万円となります。

◆市立看護短期大学の廃止条例

学生の高学歴志向が高まったことや、全国的

に四年制の看護学科の設置が進んだこと等から、これまで市立看護短期大学が提供している教育環境の必要性が相対的に低下している中、今後、四年制の看護学科を設置している、又は設置しようとする市内私立大学と協力して、医療の高度化や専門化に対応できる看護師の養成及び市立病院をはじめとする市内医療機関での質の高い看護師の確保を図ることから、市立看護短期大学を廃止しようとするものです。

就任あいさつ



京都市会副議長
柴田 章喜
(左京区選出 公明党市議団)



京都市会議長
加藤 盛司
(中京区選出 自民党市議団)

私たちは、5月市会定例会において、第76代市会議長並びに第85代市会副議長に選出されました。誠に光栄なことと存じますとともに、その職責の重さに身の引き締まる思いでございます。

近年の地方分権の推進により、地方自治体の権限が拡大し、その能力が問われる中、その意思決定機能と監視機能を有する議会の果たす役割と責任は、ますます重大になっております。

京都市におきましても、厳しい財政状況の中、環境との共生、少子長寿対策、歴史・文化・景観の継承、産業の活性化などに適切に取り組む、「魅力ある京都」を持続させることが求められています。

こうした中、京都市会では、「地域主権」型社会に対応した、市民意見を的確に反映する開かれた市会づくりを進め、市民の皆様の期待と信頼にこたえていくことが重要であると考えております。

そのために、私たち議員は、自らの見識・能力を高める努力を一層重ねるとともに、不断の議会改革に取り組みまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。